(2008.1.28)　発行国絵図研究会　〒310-8512 水戸市文京２丁目 1-1 茨城大学教育学部
小野寺研究室℡＆fax029－228－829

国絵図ニュース　21 号

大阪大会のお知らせ

寒中お見舞い申しあげます。

さて、今回の大阪大会は、鳴海邦匡先生(大阪大学)のお世話で、大阪歴史博物館において開催します。同館では、摂河泉の国絵図（16 点）と大坂三郷絵図などを閲覧し、「城下町大阪」展を見学します。ふるってご参加下さい。

なお、前回の研究会では、３月に長崎県立図書館を計画中と報告しましたが、閲覧室の広さや種々の問題で延期します。夏季には、伊能忠敬記念館で諸国国絵図の閲覧を予定していますので、その次に長崎県立図書館の開催予定です。ご容赦下さい。

記

■ 開催日　２００８年３月１日(土)～２日(日)

■ 集合場所　３月１日　11：00　大阪歴史博物館に直接おいで下さい。

■ 日程

３月１日（土）　大阪市歴史博物館

11 時 00 分～17 時 00 分　絵図熟覧会

18 時 00 分～　懇親会　大阪歴史博物館の近くで開催予定

３月２日（日）

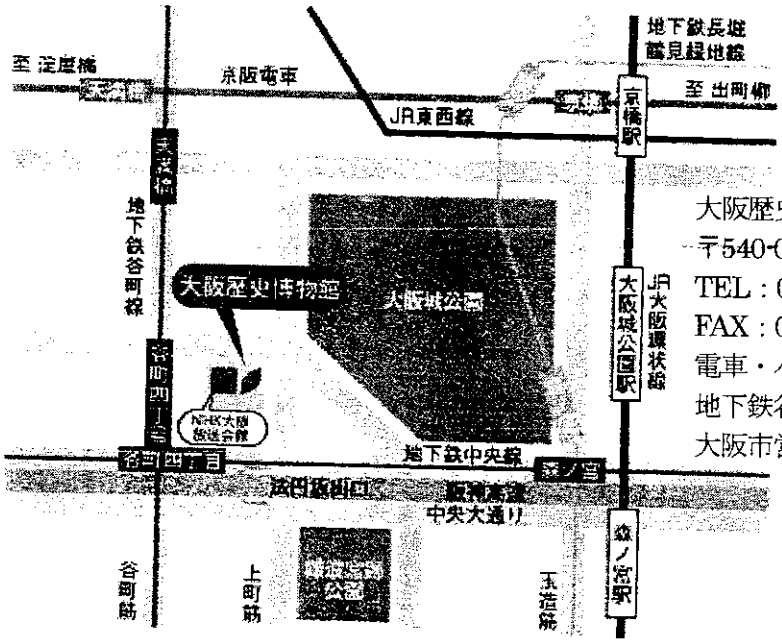
９時 30 分～12 時 00 分　研究発表会

杉本史子：地図作成行為論

鳴海邦匡：大坂勤番をめぐる絵図の伝来と構造－「城下町大坂」展の経験を通じて－

13 時 00 分～14 時 00 分　「城下町大坂」の展示見学　解説あり

■ 宿泊は各自でお探し下さい。



大阪歴史博物館（愛称：なにわ歴博）
〒540-0008 大阪市中央区大手前４丁目 1-32
TEL：06-6946-5728（ゴーナニワ）
FAX：06-6946-2662
電車・バス
地下鉄谷町線「谷町四丁目駅」②号出口前
大阪市営バス「馬場町」バス停前

同封のはがきに必要事項をご記入の上、２月 20 日必着でお知らせ下さい。

名護屋城博物館が購入した「慶長肥前国絵図」（写）

平成~~18~~19年の年の瀬も迫った12月末に佐賀県立名護屋城博物館より「慶長肥前国絵図」を購入したので年明けにでも観てもらいたいとの依頼があった。写しといえども慶長国絵図が新に出るなど最初は半信半疑であったが、電話で聞いた限りではまんざら信用できないような話でもないので、早急に見てみたくなって年明けを待たず年末休館に入る前日の12月27日に同館へ出向いて現物を観ることになった。

調査室に案内されて壁面に掛けられていた軸装の大型絵図を一見すると、淡彩ではあるがまさしく慶長肥前国絵図の図柄であった。同館の測定による本絵図の図幅寸法は231.5×245.6cm（軸装281.0×275.5cm）である。描かれた範囲は肥前国一円に筑前の内の怡土郡西半分（唐津領主寺沢志摩守領分）を含めている。図幅の寸法といい図示範囲・内容もほとんど佐賀県立図書館所蔵の『慶長年中肥前国絵図』（鍋島報効会本）に同じである。縮尺も鍋島報効会本と同程度の2寸1里（約6万4800分の1）とみなされる。

鍋島報効会本との大きな違いは図面西北部の余白に肥前国の総石高「惣国高合五拾八万千廿四石五斗二舛三合九夕九才」を掲げて肥前11郡と筑前怡土半郡を含めた各郡の郡付けを列挙していることである。この畠紙の郡付一覧は図中の郡付記載（郡高・田畠内訳員数・寺社領高・物成高・小物成高・村数）をそのまま引き出し書き写したものであって、図中では記載方向が一様でないため読みにくいことから一覧書きにまとめたのであろう。

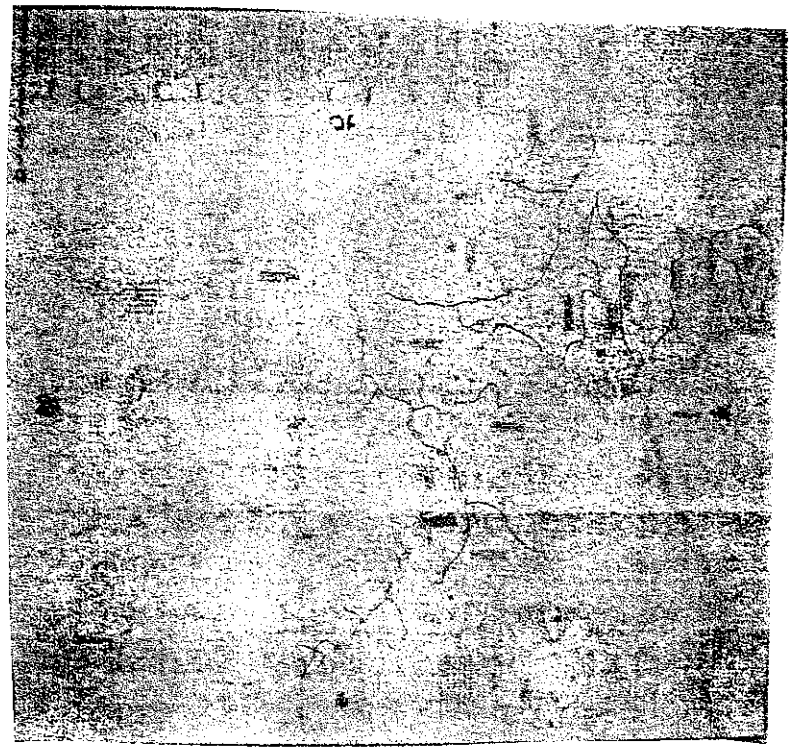
鍋島報効会本では郡界を白線で引き村形が矩形（短冊型）であって村形は郡ごとに色分けされているが、本図では郡界線が黒、村形は角を丸めた矩形であって郡ごとの村形色分けもなされていない。鍋島報効会本では佐賀藩の領分範囲のみを紫色の線分を引いて示しているが本図にはその線分の記載もない。そのほか鍋島報効会本では方位表示を東西南北の文字を内向きに記すが本図では外向きに記すことや小城郡より東端の基肄郡まで東部6郡の村形と郡付の記載方向が鍋島報効会本とは逆転していて、唐津側から見やすい構図になっているなどの違いが見られる。

以上のように本図は色付け、村形、記載数字、文字記載の方向など鍋島報効会本と描記の仕方に若干の違いはあるものの記載内容はほぼ一致している。ただ本図は鍋島報効会本と比べるとより淡彩で郡ごとの色分けがないほか村形の枠も判こを用いるなど写し方はより簡約である。本図の由来・出所についてはいっさい不明である。ただ松浦郡の郡付にて「高拾弐万四千三百卅（是ヨリ下切レテ不知）舛三合六夕九才」「畠方三千八百四拾七町五（是ヨリ下切レテ不知）歩半」などの記載があって、元図がこの部分で破損していて写せなかったことが知れる。同じ部分を鍋島報効会本で見てみると、下切れの注記はないものの数字の記載を欠いているので本図と鍋島報効会本は同じ図を元図にして写したものであろうと考えられる。

鍋島報効会本には裏書に「延宝八年大久保加賀守忠朝公所持之図、岩田七兵衛借請写之、右天保八丁酉四月国絵図御改之節、大村役人中村如平持参候借請写、御境目方」とあって、その由来がはっきりしている。本図がどのような目的で何時写されたものか正確には分かたないが、おそらく佐賀藩が天保国絵図事業の際に大村藩から借り受けて写したのと同じような目的で同時期に唐津藩が写したものではないだろうか。

本図の購入経緯については、名護屋城博物館の話によると東京某古書店の最新の古書目

録に「肥前大絵図」と出ていた本図の図幅の大きさに関心をもって古書店に問い合わせたのがきっかけであって、古書店でも本図が「慶長肥前国絵図」の写であることを認知していなかったとのことである。本来は折図であったものを軸装にしてもらって購入した。本図は同館が本年2月15日から3月23日までの期間で開催する企画展「城を移す名護屋から唐津へ」にて展示されるとのことである。(川村博忠)



◆絵図に初めて科学的調査実施、構造体としての絵図解明へ◆

以前本ニュースで国絵図研究会の皆様にご教示・ご協力をお願いしました、2006～200年度科学研究費補助金・基盤（A）「地図史料学の構築―前近代地図データ集積・公開のために―」（代表・杉本史子、課題番号18202015）では、東京文化財研究所佐野千絵氏・早川泰弘氏・吉田直人氏に共同研究に参加いただき、国宝をはじめとする美術品分析に成果をあげている科学的調査を、初めて絵図に対し実施しました。

２００７年１１月　山口県文書館所蔵、萩藩の国絵図・地下上申絵図

２００８年１月　　岡山大学附属図書館所蔵、岡山藩の国絵図

今回行った科学的調査は、蛍光X線分析法（早川氏）・可視反射スペクトル測定法（吉田氏）により、絵図の彩色の材料（色料）を調査したものです。源氏物語絵巻・尾形光琳紅白梅図・伴大納言絵巻といった文化財についての早川氏の調査の成果は、これまで、NHK「日曜美術館」などで、広く紹介されてきました。

同時に、本科研では、絵図を諸部分からなる構造をもったモノとしてとらえ、内容分析と、外形的・物質的分析とを、総合して行う調査方法を検討・実施しています。日本史研究では日本古文書学・史料学としてこれらの検討がなされてきた歴史があり、西欧古書冊学も歴史研究の最前線に出てきています。文学研究でも書誌学の成果を作品分析に本格的に取り入れる動きがでてきています。本共同研究の成果が、地図分析に寄与できればと願っています。

今後とも、皆様からご教示を賜ることができれば、幸いです。（文責・杉本史子）

最初に作製された正保日本図（写）の現存

正保日本図は２度作製されているが、従来最初に仕立てられた日本図は写といえども今では残っていないものと考えられていた。ところがこのほど京都大学の藤井譲治氏によって、その写図の現存することが明らかになった。

正保度の国絵図事業で幕府に収納された諸国の国絵図は明暦大火の江戸城火災で被災したため、その後寛文年間に正保国絵図の再徴収がなされている。最初の国絵図に基づいて編集された正保日本図も焼失したようで寛文９年に北条正房（氏長）によって再度日本図の編集が行われた。正保日本図としてはこの２度目に成立した日本図（寛文再製図）の写が国立歴史民俗博物館秋岡コレクション蔵『正保日本図』と大阪府立中ノ島図書館蔵『皇圀道度図』などであることはすでに知られていた。

このたび最初作製の正保日本図であることが明らかになったのは国立国文学研究資料館に所蔵される『日本総図』である。藤井氏はこの国文学研究資料館図を秋岡コレクション図と綿密に比較して、前者が最初に成立した正保日本図であることを解明している。またこれまで正保日本図の編集を担当したのは両度とも北条安房守氏長（正房）であるとみなされていたが、藤井氏の研究によると北条氏長が担当したのは寛文再製図のみであって、初回は井上筑後守政重が編集した可能性が高いことを明らかにしている。

２度にわたって作製された正保日本図のうち最初に成立した日本図の内容と両度の編集での担当者の違いについて詳しく知りたければ、藤井譲治・杉山正明・金田章裕編『大地の肖像－絵図・地図が語る世界』（京都大学学術出版会、2007 年３月、7,000 円）に掲載の藤井譲治氏の論文「二つの正保日本図」を一読されたい。（川村博忠）

九州大学デジタル・アーカイブをご存知ですか

九州大学デジタル・アーカイブでは、同大学や福岡県立図書館、福岡市博物館などの絵図や史・資料が高精細画像で公開されています。筑前国絵図や福岡城下町絵図、伊能図、アジアの古地図などを多数見ることができます。１度アクセスしてみて下さい。

本年度の会費を徴収します。

国絵図研究会は、皆様の会費で運営しております。ご協力ください。

一般２、０００円　　学生・院生１，０００円です

※口座番号は 00120－6－18473　加入者名国絵図研究会です。

※次回の研究会に参加された方は、礒永にお渡し下さい。

■前回山口大会の国絵図ニュースの号数は 20 号でした。記載が抜けていました。申し訳ありません。❤常時原稿を募集いたします。メールで送っていただきますと大変助かります。▲今回は、川村先生と杉本先生に原稿を賜りました。ありがとうございました。■下関ではインフルエンザ流行の兆しが見え始めました。皆様もくれぐれもご注意下さい。

ニュース編集担当・・礒永和貴　〒751-0807　下関市一の宮学園町 2-1
東亜大学人間科学部内　電話 0832-51-5177　E-mail：isonaga@toua - u.ac.jp